

東京医科大学准教授の伊藤拓水(36)は「サリドマイド」が胎児に奇形を起す仕組みを解明した。世界的な薬害で一度姿を消したが、近年は血液のがんである多発性骨髄腫などの治療薬として再び使われている。サリドマイドを出発点に、様々な病気の治療薬を開発するのが目標だ。

伊藤は2016年6月、米バイオ製薬セルジンと共に、急性骨髄性白血病の新薬候補物質を開発し、英科学誌ネイチャーハーに発表した。細胞増殖に関わる特定のたんぱく質の分解を促す仕組みを持っている。この物質のもとに、たるサリドマイドは、1950年代に旧西ドイツで開発された鎮痛・催眠剤

東京医科大学准教授
伊藤 拓水氏(36)

次世代の先進者

呼ぶ、サリドマイドも片方のタイプが薬害をもたらしたといわれていた。伊藤は10年、サリドマイドが副作用を生じる仕事に従事した。たとえば、北海道生まれの1980年、東京工業大学研究員として同大で博士号取得。同年、同大特任助教、東京医科歯科大学講師を経て、16年から現職。11年度に井上科学振興奨励賞を受賞。井上研究奨励賞受賞。



サリドマイドで奇形仕組み解明

だ。しかし、妊婦が服用すると手足などが発達しないまま子供が生まれる副作用が判明し、販売停止になった。東京工業大学に進んだ先輩たちの後を追つた。半田宏(現・東京医大特任教授)の研究室。「みんなと違ふことをやれそ」と思った。医師になつた後、米マサチューセツ工科大学へ留学した半田は、体格もよくて迫力があり、他の先生と印象が違つたといふ。セリジンからの誘いを受けた伊藤は、「ヒトゲノム(全遺伝情報)の解読など、生物学は面白い」と話す姿が印象に残つた。伊藤もその先輩の後を追つた。半田宏(現・東京医大特任教授)の研究室。「みんなと違ふことをやれそ」と思った。医師になつたセレブロンだ。そこで、実験動物のゼラチンを分解する酵素の一部だ。もしかしたら、これが、伊藤が生物学を志したきっかけだ。
英BBCなど海外メディアからも取材を受けた伊藤が生物学を志したのは高校生のころだ。東京工業大学に進んだ先輩たちの後を追つた。半田宏(現・東京医大特任教授)の研究室。「みんなと違ふことをやれそ」と思った。医師になつた後、米マサチューセツ工科大学へ留学した半田は、体格もよくて迫力があり、他の先生と印象が違つたといふ。セリジンからの誘いを受けた伊藤は、「ヒトゲノム(全遺伝情報)の解読など、生物学は面白い」と話す姿が印象に残つた。伊藤もその先輩の後を追つた。半田宏(現・東京医大特任教授)の研究室。「みんなと違ふことをやれそ」と思った。医師になつたセレブロンだ。そこで、実験動物のゼラチンを分解する酵素の一部だ。もしかしたら、これが、伊藤が生物学を志したきっかけだ。

抗がん剤などに応用探る

が「ヒトゲノム(全遺伝情報)の解読など、生物学は面白い」と話す姿が印象に残つた。伊藤もその先輩の後を追つた。半田宏(現・東京医大特任教授)の研究室。「みんなと違ふことをやれそ」と思った。医師になつたセレブロンだ。そこで、実験動物のゼラチンを分解する酵素の一部だ。もしかしたら、これが、伊藤が生物学を志したきっかけだ。
英BBCなど海外メディアからも取材を受けた伊藤が生物学を志したのは高校生のころだ。東京工業大学に進んだ先輩たちの後を追つた。半田宏(現・東京医大特任教授)の研究室。「みんなと違ふことをやれそ」と思った。医師になつた後、米マサチューセツ工科大学へ留学した半田は、体格もよくて迫力があり、他の先生と印象が違つたといふ。セリジンからの誘いを受けた伊藤は、「ヒトゲノム(全遺伝情報)の解読など、生物学は面白い」と話す姿が印象に残つた。伊藤もその先輩の後を追つた。半田宏(現・東京医大特任教授)の研究室。「みんなと違ふことをやれそ」と思った。医師になつたセレブロンだ。そこで、実験動物のゼラチンを分解する酵素の一部だ。もしかしたら、これが、伊藤が生物学を志したきっかけだ。

(遠藤智之)